



えいたに そらね ちゃん
(5さい)

おとうさんが はたらいて
いる びょういんで かん
ごしさんに なりたいな。
かんじゃさんに やさしく
て かっこいい かんごし
さんに なるの。



摩周丘幼稚園のおともだち



すどう こうすけ くん
(5さい)

うちゅうひこうしに なり
たいんだ。うちゅうの よ
うすを かんさつして
しゃしんに とって おと
うさんや おかあさんに
みせてあげたいな。

がんばっているあなたがすき

シリーズ・ひと



縁があつた弟子屈を良いまちにしたい
釧路川流域を舞台にした歌謡曲を作詞した
大橋 秀雄 さん(80歳・高栄2)

こだわりの抜いた装飾を施したサイドカーの大型バイクには「弟子屈町」の旗。人目を引く愛車は、道の駅などで声をかけられることも多いそう。他にも、オリジナルの摩周湖Tシャツのデザインを手掛けたら、本の出版を行ったり…。弟子屈をPRする活動を精力的に行っているのが大橋さんです。

1957(昭和32)年、結婚を機に網走から弟子屈にきました。当時の弟子屈町は、人口がもうすぐ1万5千人に達するかどうかというところで、観光地らしい活気もありました。ですが、その後は次第に景気も悪くなり、寂れていく感を否めませんでした。私は1964(昭和39)年に建築業の会社を設立し、2004年まで40年間、このまちで商売をさせていただきました。2010年には町在住功労もいただきました。縁があつた弟子屈を良いまちにしたい、観光地としてPRのお手伝いをしたい…。そう思った思いが自然と芽生えました。

これまで行ってきたさまざまの活動に加え、今年には釧路川を歌った歌謡曲を作詞しました。――釧路川を歌った歌がないな…。ふと思いついたのが3月、すぐに作詞に取り掛かりました。これまで作詞などしたことになかったので、とても苦勞

しました。自分自身が心を打たれ、歌詞に盛り込みたいと思う風景はたくさんありましたが、歌になったときのリズムを考えたのが言葉を選んでいくことは、大変な作業でした。

「釧路川」を作詞する上で、こだわった点がありますか。

――屈斜路湖から始まって、1市4町村を通り太平洋に注ぐのが釧路川です。弟子屈町だけのPRからさらに踏み込んで、流域市町村のPRになるような歌にしたいと思いました。それがこれからの観光の形だと思っていたからです。ですから、釧路川流域市町村の四季折々の風景を織り込みました。歌詞に織り込んだ風景は、この地に50年住んだ私が、自分の目で見てきたものばかりです。実際に行かなければ書けない歌詞になっています。

80歳を過ぎて、ますますお元氣ですね。今後の抱負は。

――苦勞した作詞でしたが、終わってみたらとても楽しかった。作詞の仕方も、その面白さも分かってきたのだと思います。次は摩周湖を題材にした歌を作る予定で、作曲を札幌の知人をお願いしているところです。これからも作詞を通してまちや管内のPRをし、お世話になった弟子屈に恩返しをしていきたいと思っています。



弟子屈町パークゴルフ協会

会長・野田 彰さん
会員・120人



弟子屈町パークゴルフ協会の皆さん



11月17日に行われた秋季協会長杯の様子

11月30日には「会誌絆」を発行し、設立20周年を祝った協会の皆さん。会長の野田さんは「会員同士のチームワークがよく、管内の大会では好成績を残せている。会員の協力で20周年を迎えられて、うれし」と話していました。

弟子屈町パークゴルフ協会は1993(平成5)年8月設立。今年、設立20周年を迎えました。設立時は会員45人でのスタートでしたが、翌年には170人を数えるまでに拡大。パークゴルフが、親子三代そろって誰もが気軽に楽しくプレーができるスポーツであることから、愛好家が急増したとのこと。この年、国際パークゴルフ協会釧路支部、弟子屈町体育協会に加入しています。毎年4月に総会を行い、役員の変更やその年度の大会予定などを決定。5月11月にかけて、20回以上もの大会を開催しています。大会には毎回50人以上の会員が参加し、和やかながら白熱したプレーが繰り広げられています。また、大会結果などを掲載した会報が発行されているのも特徴。1994(平成6)年5月から発行が始まった会報は、10月31日に300号を迎えました。大会の様子やエピソードなども盛り込まれた会報を、楽しみにしている会員も多いとのこと。設立20周年の節目に会報も300号を迎えたことは、会員の皆さんにとって感慨深く、とてもよい記念になったそうです。